

アンケート調査結果について

新潟応用地質研究会 幹事会

新潟応用地質研究会は昭和37年に発足し、幾多の紆余曲折はありましたが、昭和61年の再発足以来、平成7年度で10年目を迎えました。現在は正会員数が300名以上、賛助会員数も30社を越え、着実に増加しています。

昭和61年度以降の活動は、本会を再び定着させ運営を軌道に乗せようとすることもあり、主に定期的な会誌の発行と例会（講演会・研究発表会・見学会）等の開催に重点を置いて地道に歩んできたものと考えています。

本会の特徴は、発足時の経緯より“応用地質”という名称が付いていますが、会員には“応用地質”関係にこだわらず広い分野の方々が参加され、本会の運営方針としても地球科学全般に広く目を向けており、多くの視点・異業種間の情報交換・相互啓発および自由に意見交換ができる環境にあることと思います。

再発足10年目にあたり、現在の会員の皆様が“何に興味を持ち”、“何を考え”、また“どのような情報を望んでいるのか”等を把握し、本会の今後の運営方針策定の基礎資料とするため、平成7年5月～6月にかけてアンケート調査を実施しました。また、本会の会則3条の事業の一つとして「共同研究、調査」が掲げられており、これまでは未だ実施例がありませんが、そろそろこれらを実施する環境づくりの検討を行っていきたいと考えています。

なお、今回のアンケート調査の実施にあたり、幹事会の不手際でアンケート用紙が送付されなかった会員の方々には深くお詫びいたします。本会に対する御意見・要望・提案等がありましたら、総会の場に限らず、いつでも事務局のほうに連絡していただければ、適宜幹事会で検討したいと思っています。

アンケート調査結果は現在分析中ですが、今回は第1報として概要をお知らせします。

アンケート回答状況

年齢	官庁関係	大学関係	民間会社	計
～19			1 (1)	1 (1)
20～29			21 (1)	21 (1)
30～39	1		37 (1)	38 (1)
40～49	1	3	25	29
50～59	2	2	12	16
60～69		3	2	5
70～			1	1
計	4	8	99 (3)	111 (3)

[注] ()は女性、民間会社には個人および財団法人を含む。

アンケート調査表（要旨）

氏名・性別・年齢・所属・職業・住所

質問Ⅰ．現在最も興味・関心がある事項を下記に記載して下さい。
（複数回答可）

質問Ⅱ．上記Ⅰの回答について、興味・関心を引かれた主な理由は何ですか？
（複数回答可）

質問Ⅲ．上記Ⅰの回答について、情報収集等に関して現在の貴方の対応は？
（○を付けて下さい、複数可）

- ・その問題について自分で（共同で）調査・研究している。
- ・その問題の専門家から情報を得たり、意見交換をする機会がある。
- ・学会誌や専門図書から主に情報を得る。
- ・講演会に出席する。
- ・新聞、TV等の報道から主に情報を得る。
- ・その他

質問Ⅳ．上記Ⅰの回答について、共同研究・調査の可能性について御答え下さい。
（○を付けて下さい、複数可）

- ・既に共同研究・調査を実施している。
- ・ぜひ実施してみたい。
- ・条件（時、所、方針等）があれば参加したい。
- ・参加したいが地理的条件等で無理だと思う。
- ・参加したいとは思わない。
- ・その他。

質問Ⅴ．Ⅰの回答にこだわらず、共同研究・調査のテーマがありましたら御書き下さい。（複数回答可）

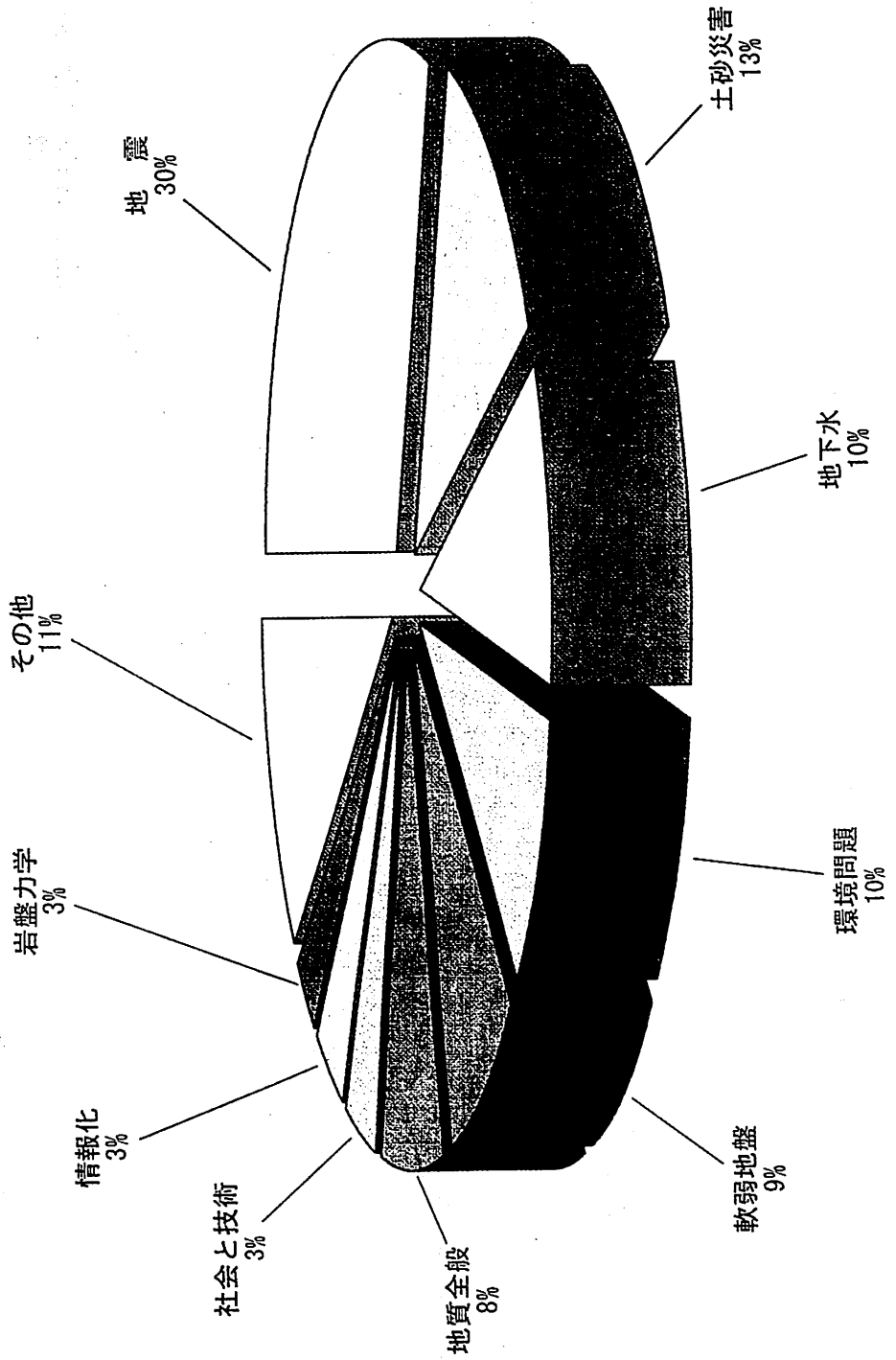
質問Ⅵ．Ⅰの回答にこだわらず、現在貴方が最も知りたい・得たい情報は何か？
（複数回答可）

質問Ⅶ．本会では年1回の現地見学会を実施していますが、貴方が望む見学地もしくは種類（ダム・トンネル等）を御書き下さい（工程的には日帰り～一泊二日程度）。（複数回答可）

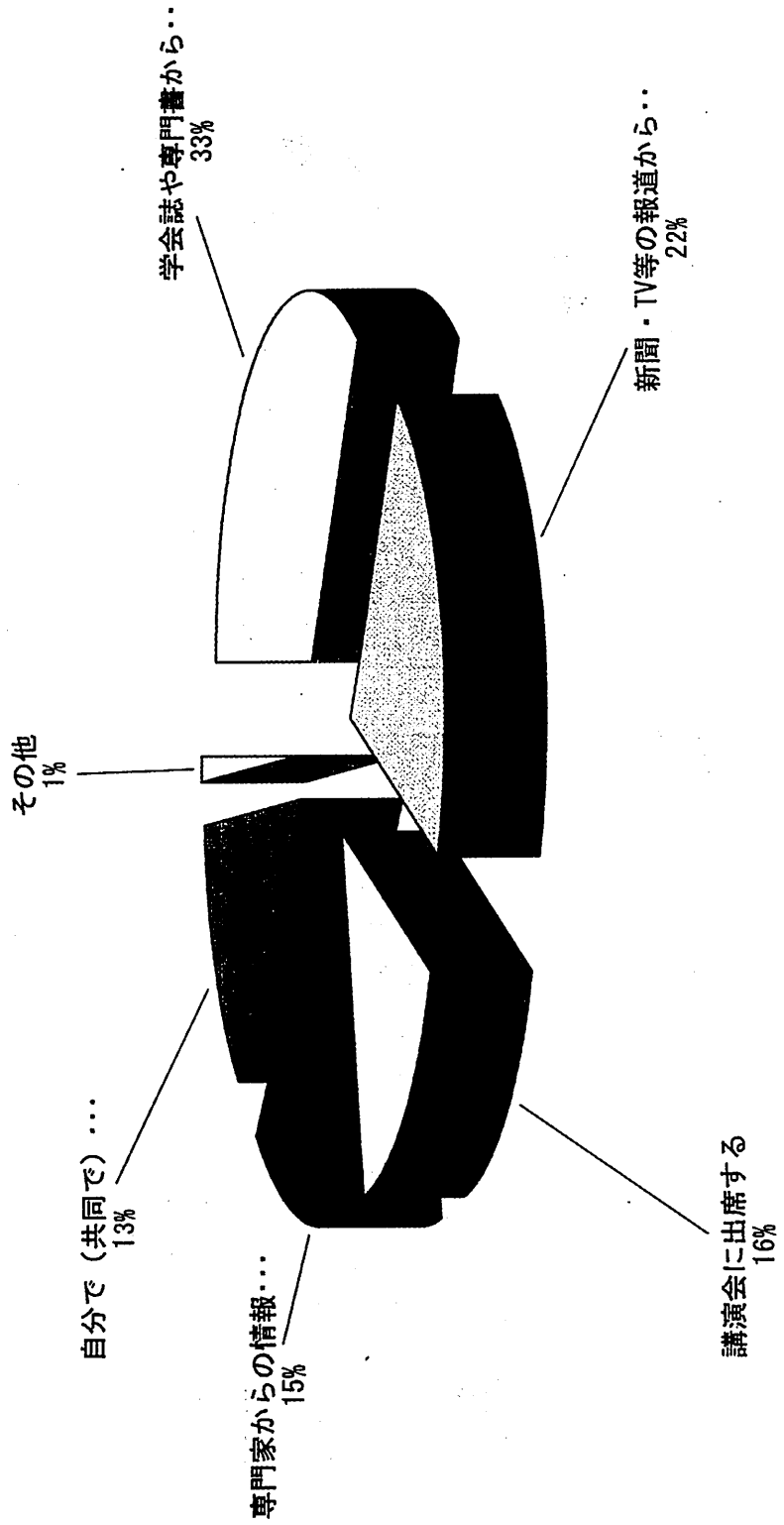
質問Ⅷ．最後に新潟応用地質研究会に望むことを自由に御書き下さい。

アンケート送付：平成7年5月下旬
回収期限：平成7年6月20日

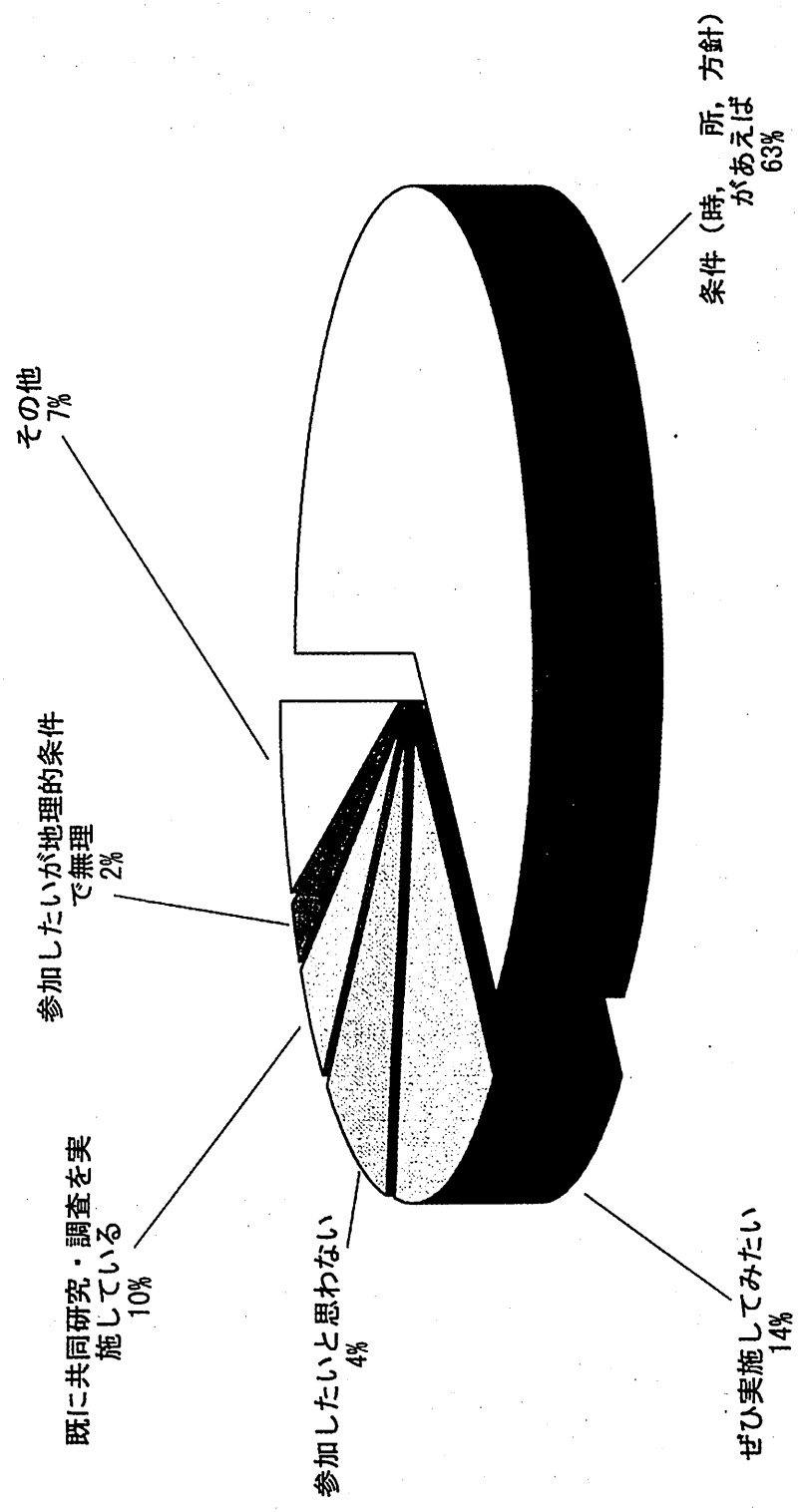
〔質問1〕 会員が現在最も興味・関心がある事項



【質問III】 情報収集の対応方法



【質問Ⅳ】 共同研究・調査の可能性



[質問Ⅰ] 現在最も興味・関心がある事項をは？ (回答者数：111名，複数回答可)

- 6 1 地震 (耐震設計，活断層，液状化，プレートテクトニクス ……)
- 2 7 土砂災害 (地すべり，土石流，景観，斜面，間隙水圧，安定解析 ……)
- 2 1 地下水 (汚染 ……)
- 2 0 環境問題 (酸性雨，温暖化，花粉，多自然河川，掘削ズリ，地盤沈下 ……)
- 1 8 軟弱地盤 (土質試験，N値，メタンガス，木造建築基礎 ……)
- 1 6 地学・地質 (化石，年代，第四紀，宇宙，構造，粘土鉱物 ……)
- 7 社会と技術 (地域づくり，公共予算，自然公園，リサイクル ……)
- 7 情報化 (リモートセンシング，空中写真 ……)
- 6 岩盤力学 (軟岩，風化 ……)
- 3 火山
- 3 温泉
- 3 海岸・海底
- 3 グラウト
- 2 ダム環境 (水質，底質 ……)
- 2 計測
- 2 地形
- 2 エネルギー (原子力 ……)
- 2 雪

(205)

[質問Ⅱ] 質問Ⅰの回答について，興味・関心を引かれた主な理由は？

(回答者数：109名，複数回答可)

※とりあえず質問Ⅰの回答の上位5項目について下記に示します。

①地震

- ・最近，地震および地震災害が頻発するので。(9名)
- ・最近，被害の大きなものが多発していることと，地震の講座において三角点・水準点変動について学習する機会があった。
- ・全県の液状化マップが無いから。
- ・耐震，免震構造を知りたいから。
- ・新潟市を中心とした空白域。
- ・このところ地震被害が大きいため。
- ・実際に現場を見たから。
- ・問題となっているから。
- ・これまでに軟弱地盤でのボーリング調査に携わることが多かったため，大地震が軟弱地盤に及ぼす影響に関心がある。
- ・阪神大震災。(10名)
- ・兵庫県南部地震に代表されるような大きな地震が，日本およびロシア極東で頻発に発生しているから。(5名)
- ・震源→工学的基礎→地表層→構造物と伝播する地震動に対して，種々の応答解析モデルが提案されており，建設予定地で想定される地震動を地盤特性も考慮した上でより正確に把握することは，耐震設計上非常に有効であると考えられるため。
- ・最近起こった地震 (阪神大震災・県北部地震) から。(2名)
- ・近年地震が相次ぎ，新潟直下地震がとりざたされるなど話題が豊富。
- ・地震と地下水位変動について，近頃多発する地震より予測の一手法としての可能性。
- ・学生時代に読んだ図書の内容が印象的であった。
- ・最近多発している地震 (直下型) から。
- ・阪神大震災における高架橋被害。
- ・活断層やプレート運動との関係に興味がある。最近地震が多い。
- ・地震によって緩い飽和砂質土が液状化することは周知の通りであるが，兵庫県南部地震等の地震の規模によっては隙質土も液状化すること。
- ・阪神大震災で住宅の倒壊が多いから (地震と住宅)。
- ・生活，生命に係わる身近な現象であるから。

- ・最近家を30年ローンで建てたが、壊れないか心配。
- ・最近地震が多発していること、新潟県内でも地震が発生したこと、さらに県内に地震の空白域があると指摘されているため。
- ・業務に必要なため（耐震調査）。
- ・地震と急傾斜地崩壊との因果関係を知りたい。
- ・阪神大震災の現地調査を行う機会があったから。
- ・最近特に地震が多発していること、未だ地震発生 of 理論的な体系が確立していない点。
- ・最近頻繁に発生し、人命が失われていることから。
- ・身近で北蒲地震が発生したこと。
- ・阪神大震災、三陸はるか沖地震、新潟県北部地震等による、甚大な地盤災害とその社会的影響を見聞きし、その予防防災対策が緊急の社会ニーズであると強く感じている。
- ・柏崎、巻（計画）の原子力発電所に事故が発生した場合、直接影響があるから。
- ・平野地下に伏在する活断層の存在や活動履歴が必ずしも明らかでない。神戸地震のように大被害を被る可能性が高いので、調査屋として何らかの対応が必要でないか。
- ・地盤と住宅との分離（免震構造）。

②土砂災害

- ・新潟県で土木工事を行うにあたり問題となることが多いため。
- ・以前より仕事の関係で携わり、興味あるテーマである。
- ・土石流、泥流の災害。
- ・会社の主要業務。
- ・日常業務の中で疑問がわいてくる。
- ・地すべりの安定計算方法について、従来のどの方法も的を射ているようで射ていないような気がする。矛盾がありながら堂々と使用されている理由がわからない。
- ・人災につながるから。
- ・何故その現象が生じるのか（生じたのか）知りたいため。
- ・雲仙普賢岳の火砕流災害。
- ・実務において評価および対策が問題となることが多いため。
- ・現在の業務を行っているうちに興味をおぼえた。
- ・仕事上、担当している事項。
- ・切土斜面の安定勾配の決定において、種々考えることが多く、もう少し定量的な算出方法があればと思う。
- ・勉強の意味で。
- ・これまでの業務の主体をなしていた。やればやるほど判らなくなる。
- ・滑動する、あるいは滑動しない地すべりの見分け、現状安全率の把握などから、滑動予測ができればいいと思う。
- ・地すべり地形以外（尾根部等）での切土等による地すべりについて、発生の可能性が予測できない。
- ・すべり面上に発達する粘性土自体のもつ強度（残留間隙水圧）。
- ・近い将来、新潟県内で大規模な土石流発生が予感されること。
- ・防災対策と景観への配慮について、今後社会的に要求が高まるはず。
- ・業務上、必要にせまられる事が多い。未解決の点が多い。
- ・対策が実施されていない急傾斜面は崩壊が発生すると直接大事故に結びつく。
- ・行政上の対応の悪さ（認識不足）を痛感しているから。

③地下水

- ・地下水汚染の進行。
- ・地すべり等、様々な現象に関連してくるため。
- ・地下水、融雪に興味がある。
- ・仕事上。
- ・被圧地下水下での掘削。県内において被圧地下水の分布が多く、そこでの掘削、杭打設等の工事が多い。
- ・発展性、実用性、重要性が高い。
- ・昨年の渇水で水資源について関心をもった。
- ・地層、地下水汚染。物質の挙動について不明確な点が多い。

- ・日頃の業務でたびたび問題となるので。
- ・新潟県が地すべり多発地帯であり、否応なしに情報を得る機会が多いため。
- ・業務に必要なため（地下水調査）。
- ・10年間ほど地下水に関係する業務をしており、調査報告書を執筆する際により多くの地下水の情報、知識を得たいので。
- ・仕事の上から扱う機会が多いため（山地の地下水）。
- ・業務上、必要にせまられる事が多い。未解決の点が多いこと。
- ・水資源開発（H6の濁水をきっかけにして）。
- ・地下水汚染（最後の命の水として）、地下水の挙動を知るトレーサーとして考えるとおもしろいこと。
- ・新潟市周辺の塩水くさびについて、海岸線より5km内陸の深さ20m付近で海水が確認されたことによる。また新潟市の下水道が雨水合流方式を採用していることから、地下水の涵養が少なくなり、塩水くさびが大きくなるのではないかと懸念されるため。
- ・水源調査結果に基づいた水源井工事で予想通りの水量の確保が難しいこと。
- ・地すべりの水抜ボーリングで放射状に集水パイプを設置しても、集水量が極端に異なる場合が多い（地下地質の構成の異なりか）。
- ・地下水の涵養、地下水収支のアンバランス。

④環境問題

- ・これからの自然環境。
- ・問題となっているから。
- ・環境アセスメント、現状の土木工事・建設工事のあり方、必要性に個人的に疑問を感じる。
- ・現在最も話題となっていることの一つであるため。
- ・酸性土壌の多い日本で、酸性雨の影響がどの程度表れるか知りたい。
- ・地球温暖化、最近暑くなっているとマスコミがバカ騒ぎしているから。
- ・ディーゼルの排ガスと杉花粉の関係について（花粉症）。
- ・環境問題は、地球上に住む人間一人一人が考えなければならない問題。
- ・多自然型川づくり、生態系の管理の可能性。
- ・業務の中で産業廃棄物処理場についての水理地質面からの評価に苦慮しているため（環境アセスメント）。
- ・地質、土壌汚染（有機塩素系）の拡大機構。
- ・シンポジウム等に出席し講演を聞いてから（環境・景観）。
- ・地球の環境問題から（リサイクル）。
- ・昨年の異常濁水や、関東導水路計画等の「水」に絡む大きな問題が発生しつつある。
- ・業務との関連（土木工事に伴う特殊な発生土砂～掘削ズリの処分方法）。
- ・マッシブな土木構造物の景観阻害。
- ・今後さらに私達が生活していく上で重要性が増してくる。
- ・自然破壊（酸性雨）。
- ・環境の変化（地球の温暖化）。
- ・自然環境とプラスチック（土に還えられない物質）の問題。
- ・社会問題（大気汚染、温暖化、砂漠化、酸性雨、フロンガス、資源の枯渇等）。
- ・地球の歴史からの地球環境を考えることが必要。

⑤軟弱地盤

- ・本県で土木工事を行うにあたり問題となることが多い。
- ・業務で担当しているため。（5名）
- ・シールド工事における安全対策、防爆設備（メタンガス）。
- ・調査、設計において「N値」は種々の問題が指摘されておりながら、現在のところあたかも万能に近いように扱われている。
- ・新潟平野の水田地帯を通る主要道路の沈下が目立つため。
- ・ケース毎に土質が変化し、対策工法もそれによって異なる点。
- ・業務上、必要にせまられることが多い。未解決の点が多いこと。

[質問Ⅲ] 質問Ⅰについての情報収集は？（回答者数：111名、複数回答可）

- 34 その問題について自分で（共同で）調査・研究している。
 - 40 その問題の専門家から情報を得たり、意見交換をする機会がある。
 - 89 学会誌や専門図書から主に情報を得る。
 - 42 講演会に出席する。
 - 60 新聞、TV等の報道から主に情報を得る。
 - 3 その他。
- (268)

[質問Ⅳ] 質問Ⅰについて、共同研究・調査の可能性は？

(回答者数：108名、複数回答可)

- 13 既に共同研究・調査を実施している。
 - 19 ぜひ実施してみたい。
 - 85 条件があれば参加したい。
 - 3 参加したいが地理的条件等で無理だと思う。
 - 6 参加したいとは思わない。
 - 9 その他。
- (135)

[質問Ⅴ] Ⅰの回答にこだわらず、共同研究・調査のテーマがありましたら御書き下さい。

(回答者数：34名、複数回答可)

(官庁関係) 回答者数：3名

- ・地質調査資料（土木・農地等）を収集整理し、広く利用できるように。
- ・ボーリング孔はどれだけの情報を引き出せるか、実験的要素を加えて研究する。
- ・液状化マップ。

(大学関係) 回答者数：3名

- ・新潟平野の地下地質。
- ・雪泥流に関する外国との共同研究。
- ・氷河と砂漠のカップリングに関する外国との共同研究。
- ・自然破壊の現状調査。
- ・自然環境汚染の現状調査。 → これらを防止する方策の研究。

(民間 — 10代) 回答者数：0名

(民間 — 20代) 回答者数：4名

- ・地すべり、斜面崩壊に及ぼす融雪の影響。
- ・堆積軟岩、特に凝灰岩の膨潤性に関する調査。
- ・新潟平野の地下地質のとりまとめ → 形成史。
- ・ある広域的な地域内の地すべり発生機構（例えば、松之山ドーム周辺等）。
- ・GPS測量によるブロック運動の監視（活構造地域）。
- ・地すべり斜面の地下水の動向（机上のシュミレーションではないもの）。

(民間 — 30代) 回答者数：9名

- ・軟岩のN値の評価と利用。
- ・掘削に伴う砂地盤のN値の低下現象とそのN値の評価について。
- ・震度分布図（直下型地震が発生した時の予想図）。
- ・活断層のトレンチ調査。（2名）
- ・堆積軟岩の劣化。

- ・火山性軟岩を基礎とするダムの地質調査。
- ・空白域の予測（県内）。
- ・液状化マップ。
- ・地質情報の公開提供サービス。
- ・地震時の地表の揺れのメカニズム。
- ・土圧理論（そろそろ古典理論から脱却しても良いのでは？）。
- ・地震災害分布図。
- ・地すべりハザードマップ。
- ・一般道路の地震対策について。
- ・環境における物質の集積機構。
- ・新潟県平野部の地盤図集の最新版があっても良い。

（民間 — 40代）回答者数：8名

- ・地すべり粘土の現位置簡易剪断試験器の開発。
- ・地震、地すべりの避難・情報伝達法について。
- ・身近なテーマでの資料・情報等をまとめた上での学習会・勉強会という形から入っていったら良いのではないか？
- ・既往地質情報（柱状図、地質図、地質文献）サービスに関して具体的に取組んで欲しい。
- ・新潟県内のトンネルの事前調査結果と施工事例について。
- ・具体的には思い当たらないが、フィールド・ワークが主体となるもの。
- ・水環境における土砂・汚泥の堆積実態。
- ・海岸地形の成り立ちと地質。
- ・活断層調査。

（民間 — 50代）回答者数：6名

- ・新潟北部地震により被災した笹神一帯の地形と地質の調査。
- ・地震と斜面防災対策。
- ・一般市民向けの地盤相談・斜面災害相談のシステム作り。
- ・活断層と地すべり・崩壊（砂防事業）。
- ・ネオテクトニック地形（高標高山頂付近の凹地形の成因など）。
- ・地質情報をリアルタイムに。
- ・簡易空中写真の撮影。
- ・地すべり崩土（N値30程度まで）の乱さない棒状コアの採取方法。

（民間 — 60代）回答者数：0名

（民間 — 70代）回答者数：1名

- ・歴史的視野からみた人間生活地域周辺の環境変化。

[質問Ⅵ] 1の回答にこだわらず、現在最も知りたい・得たい情報は？

（回答者数：57名、複数回答可）

（官庁関係）回答者数：3名

- ・講演会、講座などで講師としてボランティアで活動してくれる専門家リスト。
- ・最近の「応用地質の進歩」を集大成した資料・刊行物。
- ・地質的環境問題（発生別のシュミレーション結果）。

（大学関係）回答者数：4名

- ・地震予知の現状（学問的なものだけでなく世間で言われている様なものも含めて）。
- ・新潟平野の地下地質。
- ・越後平野をはじめ各種地質・地形情報。
- ・地質にかかわる環境・災害の問題。

- ・地すべり地の地下水、移動観測データ。

(民間 — 10代) 回答者数：0名

(民間 — 20代) 回答者数：8名

- ・参考図書及び文献。
- ・ボーリングコア分析の際の土質・地質の明確な判断基準。
- ・新潟県下における主な土試料のサンプル。
- ・世間を騒がしているオウムについて。
- ・地質とは何か？
- ・土質・地質に関する試験・調査の基礎。
- ・県内の活断層。
- ・浅深度のメタンガス分布域。
- ・失敗論に基づいて進歩した技術情報。
- ・地すべり面について。

(民間 — 30代) 回答者数：19名

- ・応力と変形の問題に対する具体的で簡便な解析法、並びにその結果と実測値を比較した情報。
- ・プレートテクトニクスと活断層、地震、火山活動の関連性。
- ・活断層。
- ・シンポジウム等の開催（新潟近辺）。
- ・さまざまな土木建造物の施工法について（施工方法の基礎知識）。
- ・砂地盤のN値について。
- ・構造物設計に用いる岩盤の定数（ $C \cdot \phi$ ）の考え方について。
- ・地震に伴う砂層の液状化。
- ・地震に伴う粘性土層の沈下。
- ・地震に伴う建造物の耐震限界。
- ・新しい技術・工法等。
- ・堆積軟岩の劣化についてのデータ。
- ・現在の物理探査の種類とその活用方法について。
- ・ダム調査、施工事例。
- ・トンネル、ダムについての調査技術。
- ・地理的気象条件を考慮した地震対策。
- ・地盤改良や杭基礎等の失敗例。
- ・地盤工学における限界状態設計法。
- ・地盤工学に関する施工事例の現場見学。
- ・土質と植生の関係。
- ・ダム地形と堆砂の関係。
- ・新潟県の地形・地質文献のリスト。
- ・場所打ち杭の施工性。
- ・土留工の施工性・地盤対策工法。
- ・地下水低下工法の施工性・効果。
- ・最新の地下水調査方法。
- ・自然・環境を考慮した建設工事の実施例。

(民間 — 40代) 回答者数：15名

- ・阪神・淡路地震の状況と機構。
- ・ハザードマップ関係。
- ・切土法面、切土斜面の安定。
- ・地震、地すべりの避難・情報伝達法について。
- ・情報化に対する各社の取組み。
- ・地すべり、斜面崩壊等、特に地すべりに関してデータベースをある機関で作成していると聞いていますが、データベースの公開利用ができるように取り組んで欲しい。
- ・最近の技術情報。
- ・新工法。

- ・新潟県その周辺の直下型地震の発生の可能性について。
- ・新潟県の自然災害事例。
- ・深度 500～2000m 程度の深部の地質情報。
- ・地震予知に関する事例。
- ・昨年の渇水の影響（地形・地質条件の差異による地下水位変化等）。
- ・新潟県内において活断層の肉眼観察が可能かどうか。
- ・焼山の火山情報。
- ・雪害について。
- ・幅広い分野（地球科学に関わる）について興味をもっている。
- ・水利用の上で、どこで、だれが、どう困っているか？ …… 助けてやりたい。
- ・最近の年代測定技術（方法、適用限界、精度、費用等）。
- ・各種土木工事の失敗例。
- ・トンネル掘削時の地質観察結果、地質展開図。
- ・法面施工箇所の地質図。

（民間 — 50代）回答者数：6名

- ・既設斜面防災対策の地震による影響の実態（事例等）。
- ・地すべり調査の現在の動向（新しい調査法、解析法、対策など）。
- ・地質調査の現在の動向と重要性。
- ・最近の水河営力論。
- ・最近の水河地形論。
- ・地震時の地盤情報（液状化、地盤図、活断層）。
- ・ゴミ、産業廃棄物の将来と自然環境。
- ・何でもためになる。

（民間 — 60代）回答者数：1名

- ・最近のデータによる地質（土質）柱状図集。

（民間 — 70代）回答者数：1名

- ・地域的環境変化の実態。

[質問Ⅶ] 現地見学会の希望地は？（回答者数：56名、複数回答可）

（官庁関係）回答者数：2名

- ・国道252号（入広瀬）土砂崩れ現場。
- ・北陸道、4車線化トンネル現場。
- ・神戸、震災現場。
- ・関越トンネルの管理システム。
- ・関越トンネルの排気坑の屋外周辺。

（大学関係）回答者数：2名

- ・ダムの基礎工事。
- ・どこでも見せていただけるだけで有り難い。

（民間 — 10代）回答者数：0名

（民間 — 20代）回答者数：12名

- ・橋梁。
- ・ダム。（6名）
- ・スキー場。
- ・ゴルフ場。
- ・スキー場、ゴルフ場等における観光地での周辺環境への影響調査。

- ・地すべり防止工事。
- ・ダム工事現場。(2名)
- ・トンネル。(3名)
- ・鍋立山トンネル。

(民間 — 30代) 回答者数：18名

- ・新潟の地震。
- ・トンネル。(3名)
- ・ダム。(4名)
- ・活断層。
- ・奥三面ダム建設現場。(2名)
- ・宇奈月ダム建設現場。
- ・大所地すべり排水トンネル。
- ・道路公団などにおける、砂質土や礫質土の橋梁工の掘削現場(ケーソンなどの特殊工法)。
- ・北陸新幹線、飯山トンネル(軟岩の長大トンネル計画地)。
- ・北陸新幹線、親不知トンネル。
- ・阿房トンネル建設現場。(2名)
- ・御獄大崩壊と大滝村土石流災害(長野県西部地震)。
- ・軟弱地盤改良。
- ・鶴川ダム。
- ・柿崎川ダム。
- ・三国川ダム。
- ・清津峡。
- ・新榎トンネル。
- ・柏崎原発。
- ・関西空港。
- ・鍋立山トンネル。
- ・種々の杭工法の現場見学。
- ・推進工法の現場。
- ・軟弱地盤改良の現場。
- ・橋梁(特に新工法によるもの)。

(民間 — 40代) 回答者数：15名

- ・新工法、工種。
- ・地附山地すべり。
- ・滝坂地すべり。
- ・奥三面ダム。(2名)
- ・柏崎・刈羽原発。
- ・東京湾岸道路プロジェクト。
- ・ダム・トンネル等の大型工事現場(特に新工法～難工事等の現場)。温泉付き1泊2日希望。
- ・北陸新幹線の各トンネル(県内分)。
- ・万代町交差点の地下道工事。
- ・信濃川沈埋トンネル。
- ・地質に関連した施工現場(種類は問わない)。
- ・活断層トレンチ調査地等(あれば)。
- ・地すべり対策工事現場。
- ・海上石油掘削基地の現場。
- ・磐越道の各工事現場。
- ・ダム。
- ・雪崩対策工(大規模なもの)。
- ・早川水系上流域の砂防施設(火山対策)。
- ・長良川河口堰。
- ・沈埋トンネル立坑。
- ・横川ダム。
- ・軟弱地盤対策施工現場。
- ・北陸道、新潟中央～新潟東IC間の土工とその管理、動態観測。

(民間 — 50代) 回答者数：6名

- ・隣接県の地すべり地の見学。
- ・磐越道の工事現場(トンネル等)。
- ・阪神大震災の現地見学。
- ・神戸、淡路島の地震の被害(技術的ボランティア活動でも良い)。
- ・巨大岩盤露頭。
- ・谷地地すべり(秋田県)。
- ・自然環境が人為的に保たれている地域・場所の見学。

(民間 — 60代) 回答者数：0名

(民間 — 70代) 回答者数：1名

- ・七ツ釜埋没地の実態。

[質問Ⅷ] 新潟応用地質研究会に望むことは？(回答者数：27名)

(官庁関係) 回答者数：3名

- ・地域社会の一般の人を対象に、「地質」、「断層」、「地下水」、「地形のなりたち」等について、講座を開講してはどうか？
- ・若い人の調査報告発表。
- ・女性の登用を期待したい。

(大学関係) 回答者数：3名

- ・いつまでも自由に何でも発言できる会であって欲しい。
- ・テーマに基づく共同研究が公開で進められれば良いと思います。是非御尽力下さい。
- ・豊かな地球の自然の中で人類そして全ての生命体が生存するために必要なことを英断下に実行する。

(民間 — 10代) 回答者数：0名

(民間 — 20代) 回答者数：2名

- ・新潟平野についての本を書いて欲しい(成り立ちや地層構成について)。
- ・各地域などのデータをコンパイルするような動きはないのか。

(民間 — 30代) 回答者数：6名

- ・見学会、交流会、支障がない範囲であれば研究等。
- ・他団体との交流(近県の応用地質研等)。
- ・研究機関における最新の研究成果についての情報(できれば建設コンサルタント業務とはあまり関係がないもの)。
- ・県周辺の地質未詳地域の研究。
- ・新潟県の土木地質図の編集。
- ・講演会等で幅広い最新情報をタイムリーに提供していただきたい。
- ・日常的(定期的)、小グループに分けた専門研究、あるいは地震・災害時に対応できるプロジェクト。
- ・特になし、いままで通り雑多な内容で良いと思う。
- ・何かにかたまりをもった技術を紹介していただきたい。

(民間 — 40代) 回答者数：7名

- ・会の構成員が官庁・大学及び調査会社の関係者にかたよりすぎているような気がします。もう少し、異業種及び一般の人を入れた形での会が作れないものでしょ

うか？

- ・活動の主体を若い人たちに移して行ってほしい。大学の（特に新しい）先生方との交流をより深めてもらいたい。
- ・多くの専門的な学会・研究会等がありますが、本会はそれらの人的な接着剤、あるいはオアシス的な役割を果たせばいいのではないかと思う。肩書・専門・業種にこだわらず、何でも言える場を提供することが大事だと思う。
- ・懇親会の会場は地質会館でない方が良い。バスの便が悪く、アルコールを飲むと不便。
- ・地球科学に関わる諸問題を自由な角度から取り上げていただきたい。会員相互の交流がより活発になることを望んでいます。
- ・懇親・情報交換の場としての存在。
- ・形の良い報告も重要ですが、地道な調査（踏査、活断層の発見、隠されてしまった露頭の調査結果等）結果はもっと重要なものと思われます。形にとらわれず、基礎資料の発表の機会を与え、資料を集積、活用することが必要と思われます。

（民間 — 50代）回答者数：6名

- ・応用地質研究会は応用する地質研究会であり、これまで通り地質的なことに限らず環境的な問題、土木的な問題等に取り組んでゆきたい。又、そのような方々の研究発表や講演をお願いしたいです。
- ・一部個人会員レベルの研究（発表）の傾向の強い現状から、更に、社会的ニーズに即した会員共通のテーマについて、随時あるいは数年にわたる共同研究体制で取り組み、成果を広く一般に公表すべきではないか？（官産学の会員の強みを生かして！）。
- ・継続性、市民参加。
- ・これまでの現地見学会はどういうわけか日程調整がつかず不参加であったのが残念です。大阪勤務で一層難しくなるような気がします。
- ・若い人が討論できる場所（会）であってほしい。
- ・会員名（簿）、事務局、会則等を教えて下さい（新規入会）。

（民間 — 60代）回答者数：0名

（民間 — 70代）回答者数：0名

以上のように、今回は会員の方々の回答（生の声）を列記しただけですが、いろいろと参考になる点があると思います。

なお、アンケート調査の分析結果は後日報告する予定ですが、とりあえず本年度の現地見学会の候補地選定から十分考慮していきたいと思っています。